

## お知らせ

### 東京体育学会第14回大会のご案内

テーマ : これからのスポーツ科学研究を考える  
～教育・指導・トレーニング現場に生きる科学をめざして～

日時 : 令和5年3月26日(日) 13:00～17:00

場所 : 国士舘大学世田谷キャンパス MCH (メイプルセンチュリーホール)

主催 : 東京体育学会

会長 : 船渡 和男 (国士舘大学)

理事長 : 田中 重陽 (国士舘大学)

連絡先 : 東京体育学会事務局 [tokyotai@kokushikan.ac.jp](mailto:tokyotai@kokushikan.ac.jp)

#### 【もくじ】

- ・ 第101回研究会開催報告 (2)
- ・ 東京体育学会第14回大会の概要 (3)
- ・ 令和4年度第1回常任理事・理事会議事録 (4)

## 第101回研究会 報告

令和5年11月22日に東京体育学会が主催する第101回研究会をオンライン形式で開催した。テーマを「スポーツ・体育における思考力の育成の重要性」に設定し、流通経済大学スポーツ健康科学部の福ヶ迫善彦先生にご講演いただいた。

本研究会は、第5期科学技術基本計画における Society 5.0 の社会で、スポーツ・体育の価値について参加者が考える機会となった。

## 開催日時・開催方法

日時：令和4年11月22日（火）17:30～18:30

方法：オンライン（Zoom）形式

テーマ：「スポーツ・体育における思考力の育成の重要性」

演者：福ヶ迫善彦（流通経済大学 スポーツ健康科学部 教授）

参加者：40名

東京体育学会 第101回研究会

テーマ

  

スポーツ・体育における  
思考力の育成の重要性

2022 (火) オンライン開催

参加費：無料

11.22

17:30▶18:30

**講師 福ヶ迫 善彦氏** 流通経済大学 スポーツ健康科学部 教授

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すものとして、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。それが、Society 5.0時代です。Society 5.0で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服します。また、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人一人が快適で活躍できる社会となります（内閣府）。

そういった中、Society 5.0時代では、思考力が重要と言われます。多種多様な考えを認め、多様な解答からその中で最善解を導く力です。健康寿命が謳われる今日、どのようにして思考力を獲得するかスポーツ界の課題です。加齢によってできなくなることを教えるスポーツ・体育。その存在価値はいろいろなところにあるのを検討します。

主催：東京体育学会    会長 船渡和男    理事長 田中重陽

## 東京体育学会第14回大会の概要

テーマ : これからのスポーツ科学研究を考える  
～教育・指導・トレーニング現場に生きる科学をめざして～  
日時 : 令和5年3月26日(日) 13:00～17:00  
場所 : 国士舘大学世田谷キャンパス MCH (メイプルセンチュリーホール)

大会プログラム(案) ※一般研究発表の申込数により多少の変更があります。

-----

13:00～13:10	開会式
13:10～14:30	基調講演: これからのスポーツ科学研究を考える ～教育・指導・トレーニング現場に生きる科学をめざして～
13:10～13:50	人文科学系の立場から 演者: 細越 淳二 (国士舘大学)
13:50～14:30	自然科学系の立場から 演者: 八田 秀雄 (東京大学)
14:40～15:30	ポスター発表 (2分間の口頭による概要説明)
15:40～16:30	ポスター発表 (責任着座制)
16:30～17:00	総会、表彰式、閉会式

-----

主催: 東京体育学会

会長: 船渡 和男 (国士舘大学)

理事長: 田中 重陽 (国士舘大学)

連絡先: 東京体育学会事務局 [tokyotai@kokushikan.ac.jp](mailto:tokyotai@kokushikan.ac.jp)

## 令和4年度 第1回常任理事・理事会議事録

日時：令和4年11月4日（金）16：30～17：30

会議方法：オンライン（Zoom）

出席者：阿江美恵子、秋葉茂季、稲葉優希、太田あや子、神田俊平、工藤和俊、菊幸一、  
小谷究、近藤智靖、佐々木玲子、沢井史穂、船渡和男、田中重陽

（順不同、敬称略）出席 13 名、欠席：15 名（委任状提出 10 名）

田中理事長より、理事全 28 名中、出席者と委任状提出者を合わせて過半数を超えていることが確認された。

### 議題

#### I. 報告事項

##### 1. 新入会員、退会・転出者について

平野幹事より【報 - 資料 1】に基づき、新入会員、退会・転出者について報告がなされた。また、田中理事長より、ここ数年、会員数の減少が続いていることが報告された。

##### 2. 若手研究助成の審査結果について

田中理事長より【報 - 資料 2】に基づき、本年度は 8 件の申請があり、4 件採択されたことが報告された。

##### 3. 第 101 回研究会について

沢井研究担当理事より【報 - 資料 3】に基づき、及川理事がコーディネーターとなって進めていること、当日は及川理事が流通経済大学にてオンライン配信の準備等を行うことが報告された。

##### 4. 東京体育学研究第 14 巻について

平野幹事より、東京体育学研究第 14 巻について、研究論文 1 編および研究報告 1 編が掲載可（研究報告は校了しており既に HP にて公開）、2 編審査中であることが報告された。

##### 5. その他

田中理事長より、以下の 2 点について報告がなされた。

###### ① 日本体育・スポーツ・健康学会 72 回大会にて開催された地域連絡会議の報告

- 2022 年度助成金配分の報告があり、本年度は 32 万円（ほぼ例年通り）であった。
- 2023-2024 年度の代議員選挙について、オンライン投票が導入され、投票率

が 11.9%（前回）から 20.4%（今回）に上昇した。

- 部活動の地域移行化についての課題に対する取り組みを各地域で何かしているかという問いに対し、東京体育学会としてはそのようなテーマを取り上げた研究会やシンポジウムの開催を今後検討していくという回答した。
- 上記内容について、日本体育・スポーツ・健康学会会長を務める菊理事より、スポーツ庁からも日本体育・スポーツ・健康学会に対し、エビデンスを出してほしいという依頼が来ていること、みなさんに広く周知して、地方の実情や問題点について情報収集するアンテナを張ってほしいという依頼であること、という補足説明がなされた。

## ② 学会 HP の管理について

東京体育学会 HP の管理会社であるマックスラインから、事業の見直し等により web 管理事業を 6 日後に廃止するという連絡があり、その後すぐに(株) JACOF から、管理事業を引き継ぐという連絡があった。学会としては、重要な情報公開の場である HP が消えてしまうことは避けなければならなかったため、急遽 JACOF に連絡をし、これまでと同様の契約内容で HP の管理をしてもらえることだったので契約を結んだ。

## II. 審議事項

### 1. 令和 3 年度事業報告

田中理事長より【審 - 資料 1】に基づき、令和 3 年度事業報告について報告がなされ、承認された。

### 2. 令和 3 年度会計報告

平野幹事より【審 - 資料 2】に基づき、令和 3 年度会計報告について報告が、また太田監事より監査報告がなされ、承認された。

### 3. 理事選挙について

田中理事長より、選挙管理委員会にて以下のように選挙実施方法の議論がなされたことが報告された。

- オンラインシステム投入には 20 万円前後の費用がかかる。
- 日本体育・スポーツ・健康学会と同じ i-Vote システムと、それよりやや安価な e 投票システムを比較検討した。
- 日本体育・スポーツ・健康学会の選挙で経験済みである i-Vote システムを利用することとした。

以上を踏まえ、i-Vote システム利用した選挙を実施することが承認された。

### 4. 第 14 回東京体育学会について

田中理事長より、現状では、開催時期・会場ともに検討中であること、案として

は、時期は例年通り 2 月末から 3 月初旬、会場は専修大学神田キャンパス（柏木理事）に打診中であることが報告された。またテーマや企画の要望・ご意見があれば 11 月中に事務局に連絡をいただき、それらを踏まえて開催時期、開催地、企画等を今後検討していくことで承認された。

#### 5. その他

なし

### Ⅲ. 懇談事項

#### ◆ 東京体育学研究のオンラインジャーナル化について

田中理事長より、これまで『東京体育学研究』の印刷を依頼していた加藤印刷が廃業したこともあり、今後『東京体育学研究』をどのように扱っていくのか、オンラインジャーナル化を進めていくのかも踏まえて検討する必要があることが提案された。（令和 4 年度については事業計画にも組まれているため、冊子体を発行しなければならないと考えている。）

（文責：東京体育学会事務局 赤澤祐美、平野智也）

---

## 会報「とうきょう」2022年度 第2号

---

発行日：2023年2月28日 編集：広報委員会

発行人：東京体育学会 会長 船渡和男

〒206-8515 東京都多摩市永山7-3-1

国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 助手室 東京体育学会事務局

e-mail:tokyotai@kokushikan.ac.jp